

放課後等
デイサービス

だいち

TSUBASA

TEL 099-297-6286

「だいち」のおたより

保護者向け通信

2017年5月号

「出会えた奇跡と感謝の気持ちを忘れず」

管理責任者 児玉 篤樹

開所当所、私達の施設にいったい何名の児童が通ってくれるのだろうか、私やスタッフも毎日不安な日々を過ごしておりました。開所より半年以上経過した今は、平均10名という利用児童数で予定も組まれ、元気な声がだいちの中で飛び交っています。

少し思い出話になりますが、昨年12月最終日。平成28年の納め式を児童と共に行いました。この日はスタッフ全員一年間の振り返りの話をしてもらいました。いつもは落ち着きのない児童もこの時はスタ



ッフの言葉を静かに聴いてくれました。

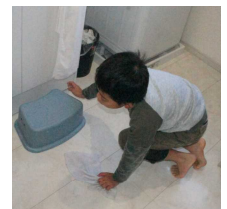
私から一言となった場面。当時から利用している4名

の小さい瞳が私を見たとき、ふと涙が込み上げ、慌ててこらえました。

「どんな子が来てくれるのだろうか?」「そもそも来てくれるのだろうか?」

「その子はだいちを気に入ってくれるだろうか?」開所以前の準備段階から頭の中でぐるぐる渦巻いて、私たちを苦しめていた悩みは、この子達が消し去ってくれました。この出会いへの感謝の気持ちでいっぱいになりました。

児童達が、だいちを知り、私たちと出会い、通ってくれた。そんな奇跡的な出会い。その児童達が安心して通えるこの場所を私達は守り続けなければいけない。様々な苦勞に寄り添いながら支えなければならない。だいちにきた児童を幸せにしなければならない。改めて我々の存在意義を認識した瞬間でした。

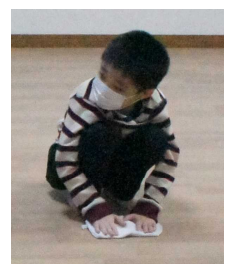


4月になり利用児童は当時の倍以上。本来では現在の体制が通常ではありませんが、それぞれの児童と接することができる時間は児童の少なかった時期に比べると少なくなりました。

それでも私は一人一人と接するときに、あの納め式で感じた出会った奇跡と感謝の気持ちを絶対に忘れないようにしています。

数ある事業所の中、奇跡的にだいちへ集まってくれている児童達の様々な支援の為に私達が存在し、存続していかなければならない。そう思わせてくれたすべての児童に感謝の気持ちを忘れず、日々の支援を行うことを心がけています。

新しい環境の4月から新鮮さや目新しさが無くなり、児童も少しずつ疲労やストレスも溜まっている時期でもあるかと思います。これからも様々なドラマがこのだいちの中で起こることと思います。その中で、児童の心の支えであることも、私達の存在意義です。至らぬ面もありますが、これからも日々努力させてください。



写真は12月最終日大掃除の様子です